

ユーザーサイエンス大学院の構想と課題

九州大学ユーザーサイエンス機構 坂口光一

sakaguchi@usi.kyushu-u.ac.jp

九州大学ユーザーサイエンス機構 (USI) の取組み (計画)

「ユーザーを基盤とした技術と感性の融合」を推進する教育研究拠点として、

＊研究指向・固定組織型からプラットフォーム型・実践プログラム型大学院へ

＊「社会」の課題やニーズに基盤をおき、個人の「学び」の主体性と「気づき」を尊重

＊「人間理解 — 感性・こころ・倫理」を学府共通“選択必修”科目として全学展開

＊新設大学院の設置そのものより、大学院教育のあり方の変革を重視

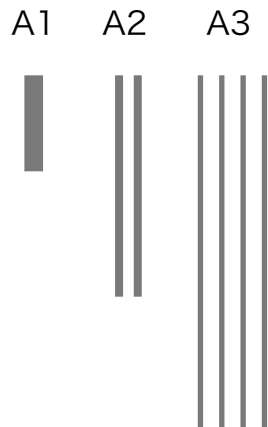
(“実際にやってみる” 実践科目、副専攻プログラム開発、ダブルメジャー等)

「人間理解」を起点とするUSI大学院

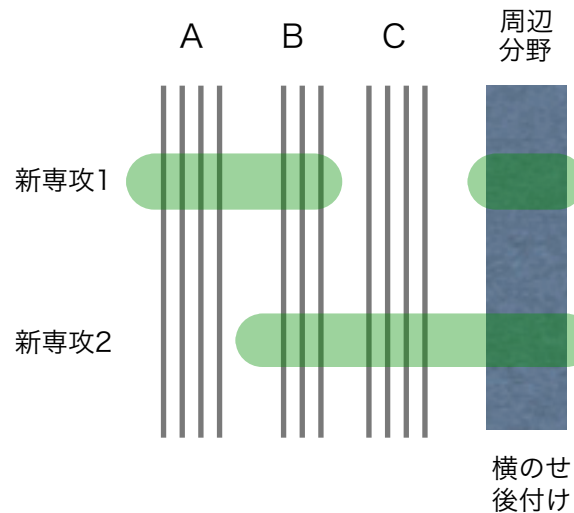
縦系に「専門」横系に「感性」を有するリーダー人材の育成

研究起点・固定組織型

【第一世代】
専門の細分化・先端化

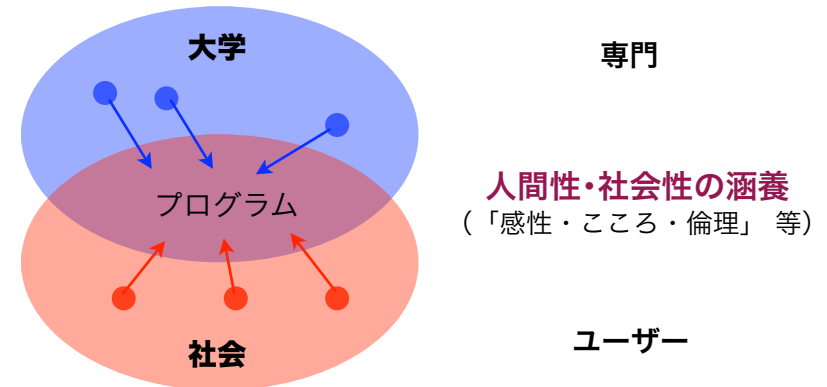


【第二世代】
専門の横断化・融合化

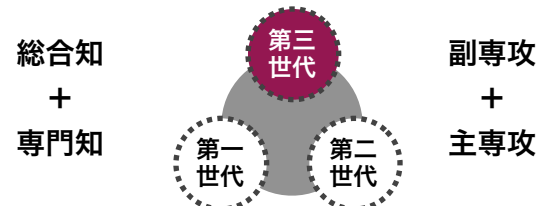


プラットフォーム型

【第三世代】
社会を向いたプログラム開発



【多様な大学院の共存・相互補完】

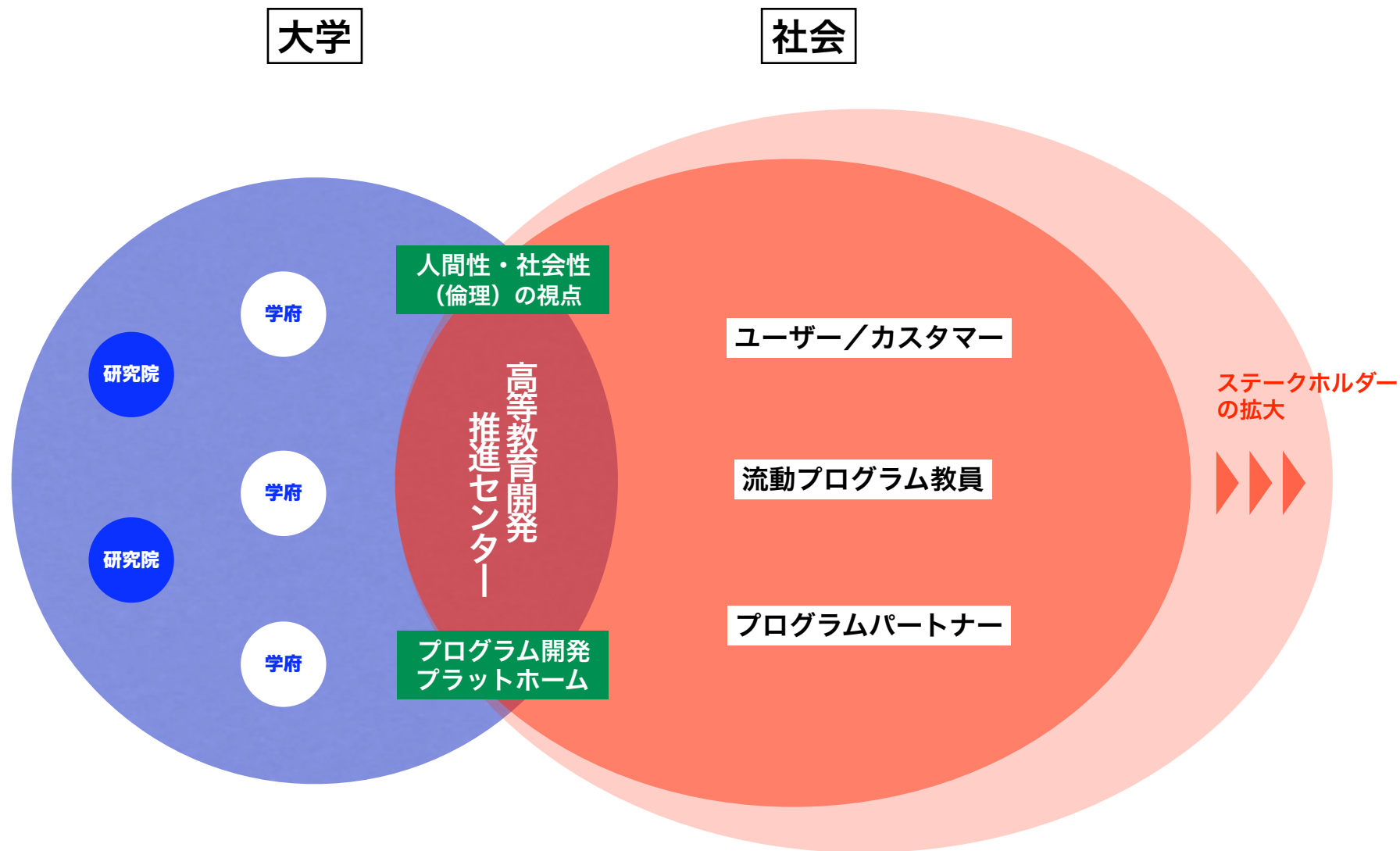


【九州大学教育憲章 四原則】

人間性の原則
社会性の原則
国際性の原則
専門性の原則

高等教育開発推進センター（全学機構）との一体展開

— 社会を向いたプログラム開発 —



高等教育開発推進センター（学内から社会への教育需要拡大）

USIの主な守備範囲（センター室員として参画）

スケジュール

(年度)	～2005	2006	2007	2008
スケジュール	全体構想策定	バーチャル専攻開始 (後期)	概算要求	ユーザーサイエンス 専攻設置
学内組織連携 の広がり	芸術工学研究院 工学研究院 人間環境学研究院	芸術工学研究院 工学研究院 人間環境学研究院 高等教育開発推進センター 農学研究院	芸術工学研究院 工学研究院 人間環境学研究院 高等教育開発推進センター 農学研究院 比較社会文化研究院 医学研究院	芸術工学 工学研究院 人間環境学研究院 高等教育開発推進センター 農学研究院 比較社会文化研究院 医学研究院 ビジネススクール
出願資格 選抜方法	ポリシー策定	九州大学大学院在学者	九州大学大学院在学者 社会人 科目履修生	九州大学大学院在学者 社会人 科目履修生 企業派遣 学校派遣
カリキュラム		リベラルアーツ科目 感性・こころ・倫理 開設	ユーザーサイエンス クオリティカルテ学 開設	US専攻 全プログラム開設
単位・資格 の認定	アドミッション ポリシー カリキュラム ポリシー ディプロマ ポリシー	実践プログラム 開設	高等教育センター 21世紀シニアプログラム 開設参画	高等教育センター リカレントプログラム 開設参画
		各学府	各学府	ユーザーサイエンス専攻

2006年度後期に開設するUSI科目

リベラルアーツ科目 「感性・こころ・倫理」

科目責任者: 坂口光一

1単位

<イントロダクション> 映画「地球交響曲」鑑賞

「感性の心理学」 三浦佳世教授(人間環境)

「アート感性」 古賀徹助教授(芸術工学)

「学びの心理学」 丸野俊一教授(人間環境)

「迷いぬく応用倫理学」 江口厚仁教授(法学)

* 「脳科学とこころ」 茂木健一郎氏(脳科学者)

* 「科学・気づき・宇宙」 天外伺朗氏(ソニー重役)

* 「禅に学ぶー空の感性」 神保至雲氏(承天寺住職)

* 外部講師(一部交渉中)

総括討論(坂口)

USI科目 「技術と人間」

科目責任者: 安河内 明

1単位

(詳細企画中)

実践プログラム科目 「KIZUKI」

科目責任者: 坂口光一

1単位

<パート1>

「気づき」ワークショップ

林 浩一(USI特任教授)

<パート2>

インクルーシブ・デザイン実習

平井 康之(芸術工学)

<パート3>

感性心理マーケティング実習

田村 馨(USI特任教授)

総括討論(坂口)

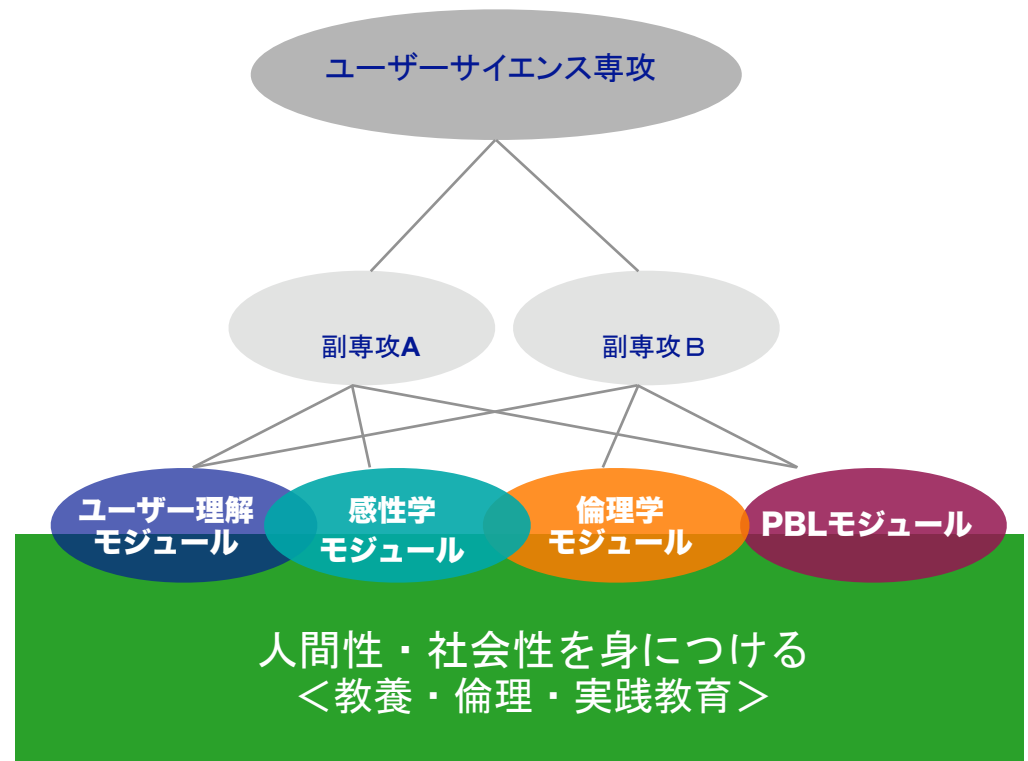
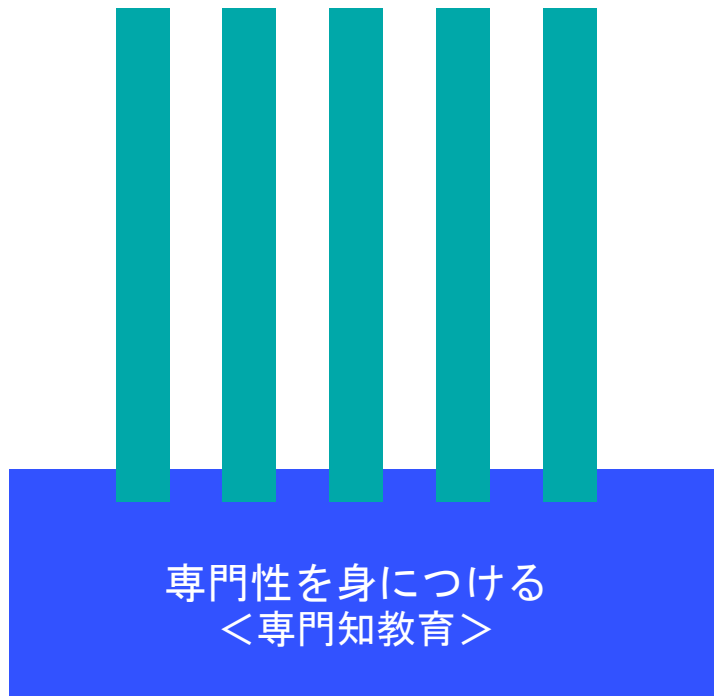
USIがめざす新コンセプトの大学院

これまで=専門知教育の深化

これから=感性・倫理・実践教育

細分化された学

総合に向かう学



「知識基盤社会」についての認識

＊産業社会の行き詰まり

＊「正解」のない問題の多発、「最適解」から「満足解」へ

＊感性と倫理が問われる時代→「文理二元論」の不適応拡大

＊科学技術のパートナー、大学のステークホルダーとしての

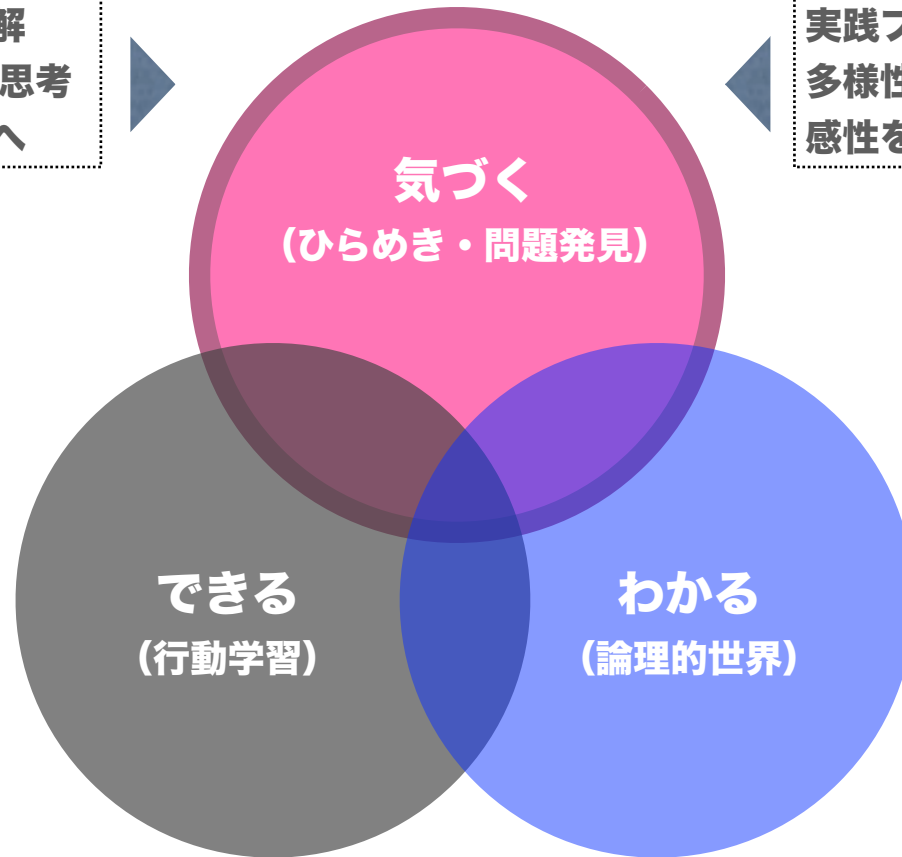
「ユーザー」の浮上（＝ギボンズ「モード2」の比重拡大）

ユーザーサイエンス大学院で育む人材

実践プログラムをつうじた「気づき」「信念」駆動型人材の育成

ユーザー感性の洞察的理解
メタファーorアナロジー思考
気づきを仮説・デザインへ

実践プログラム（現場での学び）
多様性・異文化との日常的接触
感性を磨く・教養を身につける



USIがめざす人材像

- * 専門と組織の壁を超えたチームワークで、自己組織的な「創発」を実現できる人材
- * 感性（よいセンス）をもって、ユーザー視点の知識創造、コトづくりができる人材
- * 社会やユーザーの変化を柔軟に受け入れ、変化をマネジメントしていける人材

制度「改革疲労」が蔓延していないか

*教員の多忙感、横断型・連携型組織の閉塞感、文理の壁の拡大

*上からの内向きの「改革」から、社会に向けた下からの「変化」へ

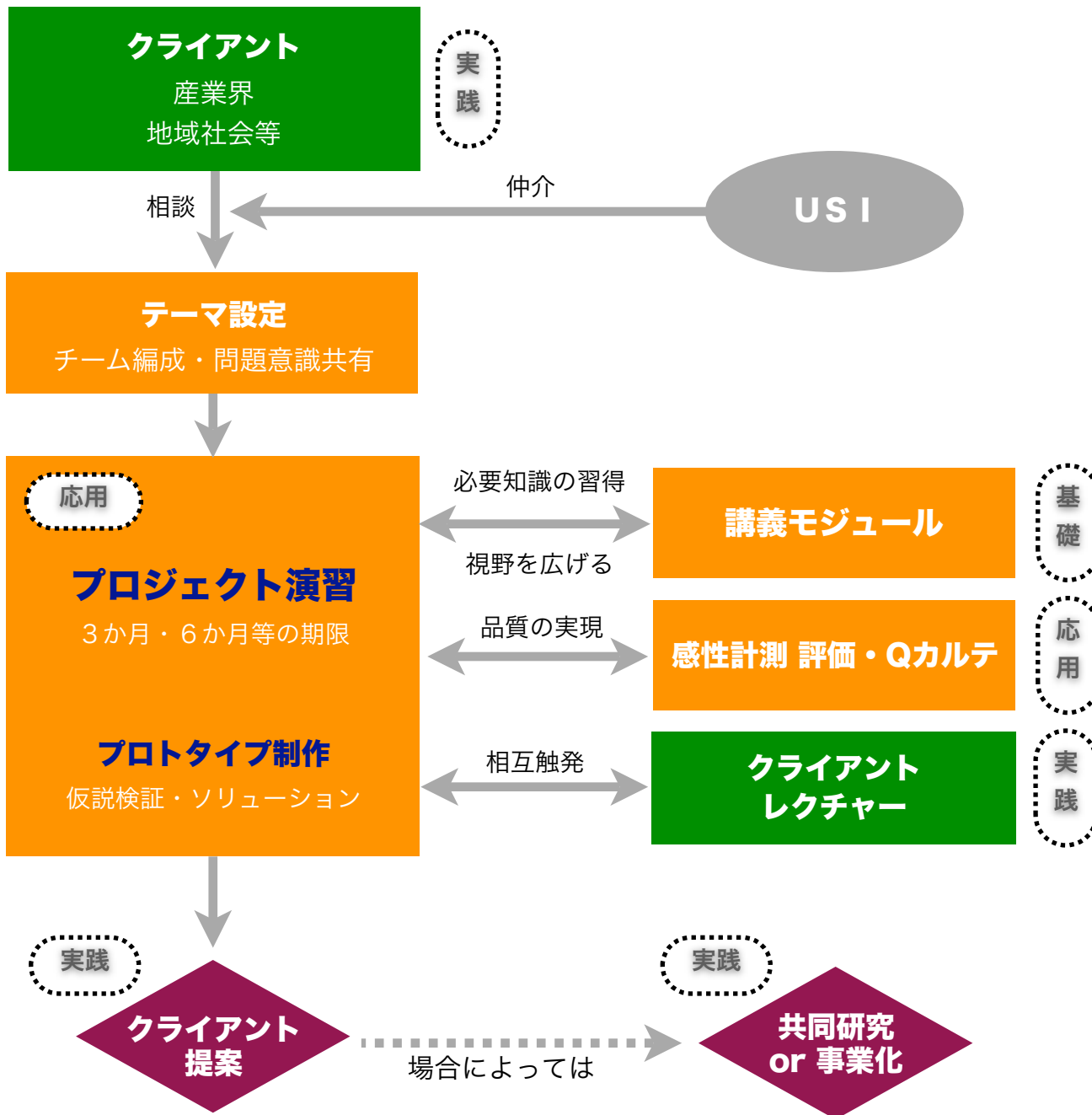
*学生の意欲、提案力、行動力、人間力の低下

⇒ “Student-first” への回帰・徹底

「要綱」 シナリオ実現に向けた課題

- *学外・民間アドバイザーを入れた「教育プログラム開発チーム」の設置・活用
- *柔軟な教員人事制度の導入検討（ポストとカリキュラムの固定化を回避）
- *実践プログラム型大学院の設置条件緩和（「専任教員」条項等）
- *「徒弟制度」から切断された教育・研究、人事・予算、施設の環境整備（次世代育成）
- *「副専攻」「ダブルメジャー」がキャリア開発の動機となる社会経済環境の整備

「プロジェクト学習」を重視した大学院教育



プロジェクト・チーム・ラーニング (PTL) のメリット

学生

実践的な知の創出体験
チームワーク・集団学習
構想力・人間力の涵養
キャリアパスの開拓

クライアント

若い人の発想にふれる
優秀な人材発掘
社内人材育成との連携

大学

共同研究への展開可能性
産学連携との相乗効果
人材育成機能の強化

PTL が推進する 3つのトライアングル

教育— 研究— 事業
大学— 地域— 産業
基礎— 応用— 実践

技術と感性の融合

